

緩和ケアの対象者へのリハビリテーション研修会

目的：国民の2人に1人が、がんに罹患するといわれる時代への国策の一環として、2010年にがん患者リハビリテーション料が新設された。周術期を中心とした支援の充実は図られるようになってきた一方で、緩和ケア病棟においては包括医療により、リハビリテーション料の出来高算定が困難な状況もある。本研修会は、がん医療に関わる療法士の臨床実践の底上げを図り、特に緩和ケアの対象者への支援の充実を図る目的で開催する。講師はわが国における緩和ケアに関するリハビリテーションの第一人者で構成した。今後は定期的な開催により、同時期の患者への対応の質の向上を図っていく予定である。

主催：リハビリテーション専門職団体協議会

（公益社団法人 日本理学療法士協会、一般社団法人 日本作業療法士協会、一般社団法人 日本言語聴覚士協会）

開催日：2016年10月15日（土）～16日（日）

参加費：10,000円（研修会当日に受付にて集金いたします）

申し込み：下記申し込みフォーム（QRコード）よりお申込みください。登録完了後に受付完了メールが届きます。

<https://docs.google.com/forms/d/1egVcMfIBQfWVvFLjldrvx91R2dJvNY70Zofzc6GWtPU/viewform>

申込締切：先着順で定員になり次第（定員 180名）

会場：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター ホール3B

（〒162-0844 東京都新宿区市谷八幡町8番地）

- JR 総武線 市ヶ谷駅 徒歩2分
- 東京メトロ南北線 市ヶ谷駅 7番出口 徒歩1分
- 東京メトロ有楽町線 市ヶ谷駅 7番出口 徒歩1分
- 都営新宿線 市ヶ谷駅 4番出口 徒歩2分



★生涯教育単位（詳細は各団体へお問い合わせください）

日本理学療法士協会：生涯学習ポイント取得対象（協会主催研修 20ポイント）

- ・神経理学療法専門分野：神経筋障害領域、脊髄障害領域
- ・運動器理学療法専門分野：運動器領域
- ・内部障害理学療法専門分野：呼吸領域
- ・生活環境支援理学療法専門分野：地域理学療法、介護予防
- ・新人教育プログラム C-3 内部障害の理学療法

日本作業療法士協会：生涯教育基礎ポイント取得対象

日本言語聴覚士協会：生涯学習プログラムポイント取得対象

★問合せ先：

高島 千敬（たかしま かずのり）

一般社団法人 日本作業療法士協会 制度対策部 副部長

E-mail： takashima@ams.odn.ne.jp （@は小文字にして送信ください）

★プログラム（講師）

1日目（2016年10月15日）

	プログラム	講師候補
9:20～ (60分)	緩和ケア概論	関根 龍一先生 (亀田総合病院・日本緩和医療学会)
10:20	休憩 (10分)	
10:30～ (90分)	身体症状の評価と治療 →がん性疼痛、呼吸困難、消化器症状他	関根 龍一先生 (亀田総合病院・日本緩和医療学会)
12:00	昼休み (60分)	
13:00～ (45分)	緩和ケア対象者に対するリハビリテーションの概論	辻 哲也先生 (慶應義塾大学・日本リハビリテーション医学会)
13:45	休憩 (5分)	
13:50～ (60分)	身体機能が低下した対象者へのリハビリテーション	峯岸 忍先生 (筑波メディカルセンター病院・日本理学療法士協会)
14:50	休憩 (10分)	
15:00～ (60分)	活動と参加への制限が出現した対象者へのリハビリテーション	島崎 寛将先生 (大阪府済生会富田林病院・日本作業療法士協会)
16:00	休憩 (10分)	
16:10～ (60分)	摂食嚥下障害、コミュニケーション障害を持つ対象者へのアプローチ	飯野 由恵先生 (国立がん研究センター東病院・日本言語聴覚士協会)
17:10	休憩 (5分)	
17:15～ (45分)	進行期・終末期にきたす浮腫をもつ対象者に対するアプローチ	小川 佳宏先生 (リムズ徳島クリニック・日本静脈学会)
18:00	振り返り、事務連絡	

2日目（2016年10月16日）

9:00～ (90分)	緩和ケア対象者の在宅復帰支援	田村 恵子先生 (京都大学・日本緩和医療学会)
10:30	休憩 (10分)	
10:40～ (90分)	気持ちのつらさとその対応	岡村 仁先生 (広島大学・日本サイコオンコロジー学会)
12:10	昼休み (60分)	
13:10～ (110分)	事例検討（在宅復帰支援含む）	峯岸 忍先生（日本理学療法士協会） 島崎 寛将先生（日本作業療法士協会） 飯野 由恵先生（日本言語聴覚士協会）
15:00	閉会の挨拶	